

令和 8 年 4 月 吉日

学校長・園長
教育関係機関・施設等責任者 殿

教育体験活動等への学生受け入れのお願い

平素より本学の教育活動に格別のご高配を賜り、深謝申し上げます。本学では、教員養成の更なる充実を目指し、令和 5 年度より新科目「自己創造のための教育体験活動」を設置し、本年度も継続して実施しております。本科目は、早期から学生が現場での実践的な学びに触れることで、教職に対する使命感を育み、就業意欲を高めることをねらいとしております。つきましては、諸事ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、本事業の趣旨にご賛同いただき、格別のご支援を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

記

1. 依頼内容

(1) 学生の受け入れ 高校生以下を対象とした教育体験活動(学校以外も可)

〔学校での活動例〕

- ・平日、長期休業中における教育体験活動：授業参観、指導補助、教材研究補助、授業準備補助、水泳指導補助、部活動指導補助、移動教室引率補助、放課後こども教室支援、研究公開への参加など
- ・週末の教育体験活動：運動会や文化祭等の行事における指導補助、部活動指導補助など

(2) 教育体験活動終了時、活動カードへの「押印、またはサイン」

- ・活動内容と活動時間を確認し、押印またはサインをお願いします。

2. 期 間 5 月～翌年 2 月

3. 対象学年 東京学芸大学教育学部 1、2 年生

4. その他

- (1) 必要に応じて面接等を実施していただき、受け入れの可否をご判断くださいますようお願い申し上げます。
- (2) 参加学生は大学にて「学生教育研究災害傷害保険(学研災)」等に参加しております。なお、各自治体や貴組織の規定により、別途ボランティア登録や追加の保険加入が必要な場合は、適宜お手続き・ご指示をいただけますと幸いです。
- (3) 本科目は通常の教育実習とは異なり、児童生徒との交流や授業参観などの補助的な活動を通じ、教育現場の現状を早期に理解することを主眼としております。これにより、学生が教職への意欲をより確固たるものにすることを目指しています。
- (4) 活動の実施に伴う学生に対する謝金や対価の有無につきましては、貴組織の規定に準じていただいて差し支えございません。
- (5) 本科目は学生の自律的な学びを重んじております。万一、学生の取り組み姿勢や態度に不適切な点がある場合は、適宜厳しくご指導を賜りますようお願い申し上げます。また、状況により受け入れの継続が困難と判断される場合は、活動を中止いただいても差し支えございません。

以上

【問い合わせ先】東京学芸大学 キャリア支援課
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
e-mail: shushoku@u-gakugei.ac.jp

《参考》授業科目「自己創造のための教育体験活動」について

① 本科目のねらいと概要

3 年次の教育実習に参加する前に、自らが求めて学校現場等で、ある一定期間体験活動を行うことを通して、教職の意義や魅力を体感したり、その課題に気づいたりすることを目的とする。参加にあたり学生は、ねらいを明確にした計画書を作成する。また、体験活動では教師や子どもの現実に触れる過程での気づきや考え、自己の成長を記録する。まとめとして学生間の情報共有や議論の場を設ける。このようなプロセスを通して、教職を目指す上での自己のアイデンティティを形成するとともに、自ら学び、成長し続ける意義について理解する。さらに、教育体験活動を通して得た学びを基盤として、教育創成科目を選択して課題解決を図ったり、課題を明確化して教育実習に臨んだりする。(別紙図 1 参照)

② 対象学年

1, 2 年生

③ 授業形態

選択 1 単位 「自己創造のための教育体験活動 A」「自己創造のための教育体験活動 B」「自己創造のための教育体験活動 C」の 3 単位取得可

オリエンテーション参加(計画書作成)、教育体験活動、ふりかえり(活動交流会参加、報告書作成)

単位として認められるためには、30～45 時間の教育体験活動が必要

各学期に 1 単位のみ取得可能

本科目のために授業を欠席しても公欠扱いにはならない

④ 教育体験活動のフィールド

- ・本学近隣の幼、小、中、高、特別支援学校
- ・学生の母校、地元の学校
- ・本学附属学校園
- ・その他、塾、家庭教師など高校生以下を対象とした教育活動の場

⑤ 活動例

- ・授業と重ならない平日、長期休業中(8 月～10 月中旬など)における教育体験活動
- ・週末の教育体験活動

⑥ 実施の流れ

5 月 本学においてオリエンテーション

5 月～ 各学校へ本学学生から連絡・各校、活動場所にて面談
計画書の作成・提出
教育体験活動
報告書の作成
活動カードに担当者による「押印」「評価」

10 月、2 月 報告書の提出、活動交流会参加、単位認定